

得

第一項ノ規定ハ大審院ニモ亦之ヲ適用ス

第四百六十六條 即時抗告ノ場合ニ於テハ左ノ特別ノ規定ニ從フ

抗告ハ七日ノ不變期間内ニ之ヲ爲ス可シ其期間ハ裁判ノ送達ヨリ始マリ第二百五十三條第六百八十条及ヒ第七百六十九條第三項ノ場合ニ於テハ裁判ノ言渡ヨリ始マル抗告裁判所ニ抗告ヲ提出シタルトキハ急迫ナラスト認メタル場合ニ於テモ亦不變期間ヲ保存ス
再審ヲ求ムル訴ニ付テノ要件存スルトキハ不變期間ノ滿了後ト雖モ此訴ノ爲メ定メタル期間内ハ抗

告ヲ爲スコトヲ得

前條第一項ノ場合ニ於テハ抗告提出ノ爲メ定メタル方法ニ依リ不變期間内ニ受訴裁判所ノ裁判ヲ求ムルコトヲ要ス受訴裁判所ハ其申請ヲ正當ト認メサルトキハ之ヲ抗告裁判所ニ送付ス可シ

〔義解〕(三四五) 受命判事若クハ受託判事ノ裁判又ハ裁判所書記ノ處分ニ付キテ變更ヲ求メントスルキハ直チニ抗告ヲ爲スコトヲ得ス先ツ受訴裁判所ニ不服ノ理由ヲ申立テ、其裁判ヲ求メサル可ラス然シテ尙ホ其受訴裁判所ノ裁判ニ對シテ不服ナルキ初メテ抗告ヲ提起スルコトヲ得ルモノナリ此ノ規定タル第一審第二審ノ裁判所ノミナラス大審院ニモ亦之ヲ適用ス可キモノトス
抗告ニハ二種アリテ通常ノ抗告及ヒ即時抗告ノ別アリ通常ノ抗告ハ

一定ノ期間ニ拘束セラレサルヲ以テ何時ニテモ之ヲ申立ツルヲ得ルモノナリ之レニ反シテ即時抗告ハ一定ノ期間ニ拘束セラレ、テ以テ其ノ期間内ニアラスンハ提起スルコトヲ得ス其通常ノ抗告ニ付テハ期限ナキモノナントモ法理上自然ノ期限ニ拘束セラレ、コトヲ免レズ何トナルニ抗告ハ訴訟進行ノ爲メニ爲シタル決定又ハ命令ニ對シテ爲スモノナリ然シテ之ヲ爲スハ當事者ノ利益ノ爲メニ爲スモノナリ故ニ本案ノ確定前ニ之ヲ提起スルニアラスンハ其効ヲ見ルコト能ハス本案ノ確定シタル後ニ於テ之ヲ提起スルト雖モ抗告裁判ノ爲メニ本案ノ確定ヲ動スヲ得サルヲ以テ當事者ニ取リテ何等ノ利益ヲモ見ルコトナシ利益ナクシテハ訴權ナシトノ法理ニ由リ本案確定後ニ抗告ヲ爲スモ之ヲ受理スルノ限リニアラサルナリ

○即時抗告ト通常ノ抗告トノ間ニ存スル差異如何

第一 即時抗告ハ七日ノ不變期間内ニ之ヲ爲サ、ル可ラス然シテ期間ハ裁判ノ送達ヨリ始マリ又欠席判決ノ申立ヲ却下スル決定ニ對スル場合競落許否ノ決定ニ對スル場合、除權判決ノ申立ヲ却下スル決定ニ對スル場合ニ在テハ裁判ノ言渡ヨリ始マル之ニ反シテ通常抗告ハ法律上ノ期間アルコトナシ又即時抗告ニ付キテ七日ノ不變期間ヲ經過シタル後ト雖モ再審ノ訴ヲ爲スニ必要ナル條件ノ存スルトキハ不變期間ノ滿了後ト雖モ再審ノ訴ニ關スル期間内ハ抗告ヲ爲スヲ得ルナリ

第二 通常抗告ハ急速ヲ要スルキニアラスンハ直チニ抗告裁判所ニ抗告ヲ提出スルヲ得サルモ即時抗告ノ場合ニ於テハ假令急速ヲ要セサルキト雖モ直チニ抗告裁判所ニ抗告ヲ爲スヲ得ルナリ

第三 即時抗告モ受命判事若クハ受託判事又ハ書記ノ處分ニ付キ其

變更ヲ求ムルモ於テハ不變期間内ニ受訴裁判所ノ裁判ヲ求ム可キモノナレモ若シ受訴裁判所ニ於テ其抗告ヲ正當ナリト認メサルモハ之ヲ裁判スルコトナク抗告裁判所ニ送付ス可キモノトス然ルニ通常ノ抗告ニ於テハ先ツ以テ受訴裁判所ニ於テ之ヲ決定シ其後ニアラスンハ抗告裁判所ニ抗告スルコトヲ得ス之ヲ要スルニ第四百六十五條ノ場合ニ於テハ裁判所ヨリ抗告ヲ抗告裁判所ニ送付スルト抗告人ヨリ更ニ抗告ヲ提起スルトノ別アルナリ

第四編 再審

本編ハ再審ノ場合ヲ規定シタルモノニテ再審トハ同一ノ訴訟ニ就キ再度ノ審理ヲ求メ得ルモノヲ云フ元來訴訟ハ一事ヲ再理セサルヲ以テ原則トナスモノニテ一ノ訴ヲ以テ請求ヲ提起シタル場合ニ於テ已ニ其訴訟カ訴訟法ノ規定ニ從ヒ上級裁判所ヲ經盡シ確定ニ至リタル

カ或ハ又法律ニ於テ定メタル上訴ノ期間ヲ經過シテ確定ニ歸シタル場合ニ於テハ其訴訟ヲ更テニ繰返ヘシテ再度ノ審理ヲ求ムルコトヲ許サス即チ一事不再理ナル原則ニ因リ裁判所ハ確定判決ニ至リタル事實ヲ再ヒ調査スルコト之レアラサルモノナリ然レモ此ノ事タル所謂一般ヲ支配スル處ノ原則ニシテ若シ其確定判決ヲ爲スニ至リタル裁判上ニ於テ非常ナル瑕疵ノ存スルコト現ハレタルトキニ於テハ之ヲモ抹消シテ匡正ノ道ヲ與ヘスト云フコトアルヲ得ヘカラス之レ本編ニ於テ再審ノコトヲ規定シ法律上或ル場合ヲ認メ確定判決ニ對シテモ或ル場合ニ於テハ更テニ審理ヲ求メ得ルコトト定メタル所以ナリ固ヨリ再審ノ場合ハ此ノ如ク一事不再理ノ原則ニ對スル例外トシテ或ル原因ヲ限定シタルコトナルカ故本編ニ規定シタル處ノ各原由ノ外ニ在テハ之カ訴ヲ起スコトヲ得ヘカラス唯茲ニ規定スル處ノ原

由ニ適合スル場合ニ限リ訴訟ニ付キ再度ノ審理ヲ求メ得ルモノタル
コトヲ知ルヘキナリ

第四百六十七條 確定ノ終局判決ヲ以テ終結シタル
訴訟ハ取消ノ訴又ハ原狀回復ノ訴ニ因リ之ヲ再審
スルコトヲ得

當事者ノ一方又ハ雙方ヨリ此兩訴ヲ起シタルトキ
ハ原狀回復ノ訴ニ付テノ辯論及ヒ裁判ハ取消ノ訴
ニ付テノ裁判カ確定スルマテ之ヲ中止ス可シ

〔義解〕(三四六) 本條ハ再審ハ如何ナル場合ニ於テ之ヲ求ムルヲ得ル
ヤノコトヲ定メタルモノナリ再審ヲ求ムルノ方法二个アリ曰ク取消
ノ訴曰ク原狀回復ノ訴之レナリ而シテ此ノ二个ノ方法ヲ以テ訴ヲ爲
シ得ヘキ場合ハ之ヲ第四百六十八條及ヒ第四百六十九條ニ於テ規定

シタリ

蓋シ再審ナルモノハ一事不再理ノ例外トシテ同一ノ人ニ係リ同一ノ
原由ヲ以テ同一ナル請求ヲ再ヒ爲スヲ得ルコトヲ定メタルモノニテ
即チ一ノ判決確定シタル後ニ於テ更ラニ之レト同一ナル争ヒテ裁判
上ニ於テ調査スルコトヲ云フモノナリ故ニ再審ハ終局判決ヲ以テ確
定シタル訴訟ニ對スル訴ニシテ此ノ訴ハ取消ノ訴及ヒ原狀回復ノ訴
ナル二个ノ訴訟ノ方法ニ因リ之ヲ爲スコトヲ得ルモノト定メタリ即
チ取消ノ訴又ハ原狀回復ノ訴ハ法律上ニ於テ之ヲ再審ト稱シ或ル原
由ヲ具フル場合ニ於テ之ヲ提起シ得ルモノト爲セリ而シテ之ヲ終局
判決ノ場合ニ限ルコトト爲セシモノハ若シ彼ノ中間判決ノ如キハ訴
訟ノ本案未タ全ク判決ヲ經サルモノナルカ故固ヨリ本案ニ對スル審
理ニ於テ十分之ヲ主張シ得ヘキ道アリ殊ニ再審ヲ求ムルヲ要セス又

之ヲ確定判決ト定メタルモノハ確定以前ノ判決ニ對シテハ上訴ヲ以テ十分之ヲ主張シ得ルコトタルカ故殊ニ再審ノ方法ニ因リ之ヲ匡正セシムルノ必要アラス唯確定シタル終局判決ニ對スル場合ニ限リ本編規定ノ再審ノ方法ヲ以テ再度ノ審理ヲ爲サシムハキ必要之レアルモノタルヲ以テナリ

再審ノ訴ハ分テ二個ノ方法ト爲ス第一ハ取消ノ訴第二ハ原狀回復ノ訴之レナリ而シテ本條以下ノ二條ニ於テ見ルカ如ク取消ノ訴ハ裁判所ノ構成及ヒ判事ノ立會當事者ノ代理人等不法ニ出テタルヲ原由トシ其曾テ受クタル裁判ノ取消ヲ求ムル場合ニシテ原狀回復ノ訴ハ之レト異ナリ裁判ノ當時ニハ見ハンツリシ處ノ事實カ裁判確定ノ後ニ至リ見ハンタルコトニテ其事實カ與リテ裁判ノ正ヲ失ハシメタルヲ原由トシ曩キノ裁判ニ就キ再度ノ審理ヲ求ムル場合ヲ云フ本條第二

項ニ於テハ此ノ兩訴カ當事者ノ一方又ハ雙方ヨリ並ヒ起リタルトキニ於テハ先ツ取消ノ訴ニツキ裁判ヲ爲シ此ノ裁判確定スルマテハ原狀回復ノ訴ニ對スル辯論及ヒ裁判ヲ中止スヘキコトト爲セリ之レ取消ノ訴ハ該判決ヲ爲スニ至リタル裁判上ノ組織ニ不法アルヲ原由トシ之レカ取消ヲ求ムルモノナルヲ以テ此ノ基礎ニシテ已ニ破ルハトキハ原狀回復ノ訴ニ就テハ再審ヲ要セサルコトニ至ルヘキカ故茲ニ其順序ヲ定メ取消ノ訴ニ付テノ裁判カ確定ニ至ルマテハ原狀回復ノ訴ニ就テハ其辯論及ヒ裁判ノ中止ヲ爲スヘキコトト定メタルモノナリ

第四百六十八條 左ノ場合ニ於テハ取消ノ訴ニ因リ

再審ヲ求ムルコトヲ得

第一 規定ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セザリシト

キ

第二 法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタル判事カ裁判ニ參與シタルトキ但忌避ノ申請又ハ上訴ヲ以テ除斥ノ理由ヲ主張シタルモ其効ナカリシトキハ此限ニ在ラス

第三 判事カ忌避セラレ且忌避ノ申請カ理由アリト認めラレタルニ拘ハラズ裁判ニ參與シタリシトキ

第四 訴訟手續ニ於テ原告若クハ被告カ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレサリシトキ

第一號及ヒ第三號ノ場合ニ於テ上訴若クハ故障ヲ以テ取消ヲ主張シ得ヘカリシトキハ取消ノ訴ヲ許

サス

〔義解〕(三四七) 本條ハ取消ノ訴ヲ以テ再審ヲ求メ得ル場合ヲ規定シタルモノナリ即チ已ニ確定シタル判決ニ對シ再審ノ訴ヲ以テ之レカ取消ヲ主張セントスルニハ本條ニ規定シタル各項中其一ノ原由ヲ具フルヲ要スルコトト爲セリ即チ此ノ各原由ハ裁判ヲ爲スニ至ル其基礎ニ不法アルヲ理由トシ其裁判ノ取消ヲ求ムルモノナリ今各原由ニ就キ之ヲ講究ス可シ

第一ノ原由ハ規定ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セサリシトキニシテ即チ裁判所ノ組織ハ裁判所構成法ナル法律ヲ以テ之ヲ定メタルモノアリ然ルニ受訴裁判所ニ於テ此ノ法律ニ戻リ之レカ構成ヲ爲サリシ場合ニ於テハ其判決タル固ヨリ裁判トシテノ効果ヲ有セシムヘキモノニ非ス恰モ之レ裁判所ニ非サル處ニ於テ裁判ヲ下シタル

ト同一ノモノト云ハサルヘカラス已ニ然ルトキハ其判決ハ此ノ不法ヲ原由トシテ之レカ取消ヲ求ムルヲ得ルハ理ニ於テモ亦然ラサル可ラサル處ナリ例之ハ三人ノ判事ヲ以テ組織スヘキ地方裁判所ニ於テ一人若クハ二人ノ判事カ裁判ヲ與ヘタルトキノ如キ五人ノ判事ヲ以テ組織スヘキ控訴院ニ於テ四人若クハ三人ノ判事ニテ裁判ヲ爲シタルトキノ如キ或ハ又法律ニ於テ檢事ノ立會ヲ必要ト爲シタルニ裁判所ニ於テ之ヲ顧ミサリシトキノ如キ即チ規定ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セサルノ適例ニシテ此ノ如キ違法ノ組織ニ係ル裁判所ノ決定ハ恰モ之レ法律上ヨリ云ヘハ裁判所ニ非サル處ノ判決ト同一ナルカ故固ヨリ之ヲ原由トシテ取消ヲ求ムルコトヲ得ルモノトナセリ然レモ此ノ場合ニ於テハ上訴又ハ故障ヲ以テ此判決ノ取消ヲ主張シ得ヘカリシトキハ此ノ訴ヲ許サ、ルコト、ナセリ

之レ其裁判ニ就テハ匡正ノ道アルニ關セス自ラ之ヲ放棄シ該判決ヲ確定セシムルニ至リタルモノナルカ故之レニ對シ再審ヲ許スノ理由之レアラサルナリ故ニ終審ノ判決ニ關スル外本項ノ理由ニ因リ取消ヲ求メントスルニハ上訴又ハ故障ヲ以テ之ヲ主張シ得ヘカリサリシ事情ヲ説明セサルヘカラス

第二ノ原由ハ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタル判事カ裁判ニ參與シタルトキニシテ此ノ事ニ就テハ本法第三十二條以下第四十一條ニ至ル各條ニ之レカ規定ヲ爲シタルモノアリ即チ該各條ニ於テ當然職務ノ執行ヨリ除斥セラレタル判事カ裁判ニ參與シタルトキハ之ヲ理由トシテ裁判ノ取消ヲ訴ヘ出ルヲ得ルコト、爲セリ然レモ此ノ場合ニ於テハ申請ヲ以テ或ハ上訴ヲ以テ其忌避ノ次第ヲ主張シタルニ係ハラズ其効ナカリシトキ即チ此ノ手續ヲ盡シ

タルニ關ハラス忌避ノ理由ナシト決セラレタルトキニ於テハ之ヲ以テ取消ヲ求ムルノ理由ト爲スコトヲ得ス故ニ其申請或ハ上訴ニ於テ之ヲ主張セス裁判ノ後ニ至リ之ヲ發見シタル場合ニノミ此ノ理由ヲ以テ取消ノ訴ヲ爲シ得ルコト、定メタルモノナリ、

第三ノ場合ハ更ラニ一步ヲ進ミ判事カ忌避セラレ且忌避カ理由アリト認メラレタルニ係ハラス裁判ニ參與シタルトキニシテ此場合ニ於テハ明ラカニ法律ヲ犯シテ裁判所ヲ構成シタルコトナルカ故之ヲ理由トシテ取消ノ訴ヲ爲スヲ得ルコト、定メタルハ最モ明瞭ノ理ニ基ケル適當ノ規定ト云ハサル可ラサルナリ然レモ此ノ場合ニ於テモ亦故障又ハ上訴ヲ以テ其裁判ノ覆審ヲ求メ得ヘカリシトキハ此ノ方法ニ因リ其取消ノ理由ヲ陳述スヘキハ相當ノコトニシテ之ニ因リ其主張ヲ爲サルハ其責メ當事者ニアリテ存スルコト

ナルカ故終審ノ裁判ヲ除ク外ハ之ヲ故障又ハ上訴ニ因リテ主張シ得ヘカラサリシコトヲ疏明セサルヘカラス

第四ノ場合ハ訴訟手續ニ於テ原告若クハ被告カ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレサリシトキニシテ即チ訴訟ノ代理人トシテ裁判ヲ受クルニ至リタル者カ代理人タルノ能力ヲ有セサル場合及ヒ其委任ノ備ハラサリシ場合ヲ云フ此ノ場合ニ於テハ曾テ訴訟ヲ爲スヘキ能力ノ存セサルモノニ於テ其訴訟ヲ爲シ判決ヲ受クタルモノナルカ故其裁判ハ本人ニ對シ効力ヲ及ボシ得ヘキモノニ非ス故ニ此ノ理由ヲ疏明シテ裁判ノ取消ヲ求メ得ヘキコト、定メタルモノナリ

以上講説シタル四項ノ原由ハ何レモ已ニ確定シタル裁判ニ對シ之ヲ取消ヲ求メ得ヘキ場合ニシテ末項ニ規定シタル第一號及ヒ第三號ノ原由ヲ以テ裁判ノ取消ヲ求メントスルニ或ル制限ヲ爲シタルモノ

ハ該各項ノ下ニ於テ講説シタルカ如キ理由ニ因リ之ヲ制限スヘキ必
要アルニ因ルモノナリトス

第四百六十九條 左ノ場合ニ於テハ原狀回復ノ訴ニ
因リ再審ヲ求ムルコトヲ得

第一 刑法ニ掲ケタル職務上ノ義務ニ違背シタ
ル罪ヲ訴訟ニ關シ犯シタル判事カ裁判ニ參與
シタリシトキ

第二 原告若クハ被告ノ法律上代理人若クハ訴
訟代理人又ハ相手方若クハ其法律上代理人若
クハ訴訟代理人カ罰セラルヘキ行爲ヲ訴訟ニ
關シテ爲シタリシトキ

第三 判決ノ憑據ト爲リタル證書カ偽造又ハ變

造ナリシトキ

第四 證人若クハ鑑定人カ供述ニ因リ又ハ通事
カ判決ノ憑據ト爲リタル通譯ニ因リ偽證ノ罪
ヲ犯シタリシトキ

第五 判決ノ憑據トナリタル刑事上ノ判決カ他
ノ確定ト爲リタル刑事上ノ判決ヲ以テ廢棄若
クハ破毀セラレタリシトキ

第六 原告若クハ被告カ同一ノ事件ニ付テノ判
決ニシテ前ニ確定ト爲リタルモノヲ發見シ其
判決カ不服ヲ申立テラレタル判決ト抵觸スル
トキ

第七 相手方若クハ第三者ノ所爲ニ依リ以前ニ

提出スルコトヲ得サリシ證書ニシテ原告若クハ被告ノ利益ト爲ル可キ裁判ヲ爲スニ至ラシム可キモノヲ發見シタルトキ

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テハ罰セラル可キ行爲ニ付テ判決カ確定ト爲リタルトキ又ハ證據欠缺外ナル理由ヲ以テ刑事訴訟手續ノ開始若クハ實行ヲ爲シ得サルトキニ限り再審ヲ求ムルコトヲ得

〔義解〕(三四八) 本條ハ原狀回復ノ訴ヲ起シ得ヘキ原由ヲ定メタルモノニテ本條ニ列記シタル七項ノ原由存スル場合ニ於テハ原狀回復ノ訴トシテ再審ヲ求ムルヲ得ルコト、爲セリ左ニ前條ノ例ニ倣ラヒ各項ニツキ之ヲ講説ス可シ

第一ノ原由ハ刑法ニ掲ケタル職務上ノ義務ニ違背シタル罪ヲ訴訟

ニ關シ犯シタル刑事裁判ニ參與シタリシトキニシテ所謂訴訟ニ關シトハ其再審ヲ求ムル處ノ訴訟ニ關シテ刑事裁判上ニ於テ罪トシ罰スヘキ所爲ヲ犯シタルトキ云フ此ノ場合ニ於テハ其裁判タル最モ信用スヘカラサルモノニシテ此ノ犯罪ノ爲メニ任ケラレタルモノ之レアラスト云フヘカラサルカ故之レニ就キ再審ヲ求メ得ルコトト定メタルハ最モ適當ノ規定ト云ハサルヘカラス蓋シ訴訟ニ關シテ刑事裁判上ノ罪ヲ犯ストハ賄賂ヲ收受シタル場合ノ如キ或ハ私ニ一方ヲ庇蔭シテ他ノ犯罪ヲ犯ス場合ヲ云フナリ蓋シ此罪タル敢テ賄賂罪ニ限リタルニアラサレモ其犯罪トシテ現ハルヘキモノハ賄賂罪ヲ以テ最モ多キコトタルヲ知ルヘシ已ニ其裁判ヲ爲セシ處ノ刑事ニシテ此ノ如キ犯罪ヲ爲セシ事實アル以上ハ其裁判ハ之レカ爲メニ動かサレタルモノナルコト知り得ヘキカ故原

狀回復ノ訴ヲ以テ再審ヲ求メ得ヘキ第一ノ原由トシテ本條ニ於テ之レカ規定ヲ爲シタルモノナリ

第二ノ原由ハ原告若クハ被告ノ法律上代理人若クハ訴訟代理人又ハ相手方ニ於テ若クハ其法律上ノ代理人訴訟代理人等ニ於テ罰セラルヘキ行爲ヲ訴訟ニ關シテ爲シタルトキ之レナリ罰セラルヘキ行爲トハ偽造變造ノ如キ或ハ偽證教唆ノ如キ或ハ又法律上代理人又ハ訴訟代理人ニ於テ詐欺ノ行爲アル如キ場合ヲ云フ此ノ場合ニ於テハ法律上ニ於テ罰セラルヘキ其所爲カ裁判ヲ左右スルニ至リタルコト殆ント明白ナルカ故之ヲ理由トシテ再審ヲ求メ得ヘキモノト爲セリ

第三ノ原由ハ判決ノ憑據ト爲リタル證書カ偽造又ハ變造ナリシトキニシテ固ヨリ此ノ偽造變造ハ何人ノ處爲ニ出タルヤテ問ハス已

ニ偽造又ハ變造ノ證書ニ因リ權利關係ヲ定メタル以上ハ其判決カ事實ノ眞ヲ得タルモノニアラサルコト明白ナルカ故之ヲ理由トシテ原狀回復ノ訴ヲ起シ得ルコト、爲セシモノナリ

第四ノ原由ハ證人若クハ鑑定人カ不正ノ供述ヲ爲シ之レカ爲メニ偽證ノ罪ニ問ハレ又ハ通事カ判決ノ憑據ト爲ルヘキ通譯ニ於テ同シク偽證ノ罪ニ問ハレタル場合ニシテ此ノ場合ニ於テハ該判決ヲ導ク處ノ原因已ニ不正ニシテ此ノ如キ犯罪カ裁判ヲ左右スルノ根據トナリシモノナルカ故其裁判ノ不法カ之レニ原因シタルコトヲ證明シテ原狀回復ノ訴ヲ爲シ得ヘキコト、定メタルモノナリ

第五ノ原因ハ判決ノ憑據ト爲リタル刑事上ノ判決カ他ノ確定ト爲リタル刑事上ノ判決ヲ以テ廢棄若クハ破毀セラレタルトキニシテ即チ民事上ノ判決ヲ爲スノ憑據ニ供セラレタル刑事上ノ判決カ上

訴ノ未遂ニ廢棄又ハ破毀セラレ其判決確定シテ曾テ民事上判決ノ
憑據ニ供シタルモノト別異ナル結果ヲ生シタル場合ナリ此ノ場合
ニ於テハ曾テ判決ノ憑據ニ供シタル刑事上ノ判決ハ已ニ消滅シテ
其効力之レアラサルコト、爲リシモノナルカ故即チ民事上ノ判決
ヲ下シタルノ基礎動キタルモノト云ハサルヘカラス已ニ然ルトキ
ハ之レテ其理由トシテ再審ヲ求メ得ルコトト爲セシハ最モ適當ノ
規定ト云ハサルヘカラサルナリ

第六ノ原由ハ原告若クハ被告ニ於テ同一事件ニ付キ曾テ裁判ヲ受
ク其判決已ニ確定シタルモノアリ而シテ原狀回復ノ訴ヲ爲ス處ノ
判決ト此ノ判決トカ明ラカニ抵觸スル場合ニシテ此ノ場合ニ於テ
ハ判決ノ結果相同シカラスシテ同一ノ事情ニ付キ兩様ノ裁判ヲ受
ケタルモノナルカ故之ヲ理由トシテ原狀回復ノ訴ヲ起シ得ヘキコ

トト定メタルモノナリ

第七ノ原由ハ裁判ノ後ニ至リ原狀回復ノ訴ヲ起スヘキ者ノ爲メニ
利益ト爲ルヘキ證書ヲ發見シタルトキニシテ而シテ此ノ證書ヲ先
キノ裁判ニ提出シ得サリシハ相手方若クハ第三者ノ所爲ニ出テ即
チ自ラ注意ヲ欠キタルカ爲メニ之ヲ提出シ能ハサリシニアラスシ
テ此等ノ障礙ニ因リ之レカ提出ヲ爲シ能ハサリシコトヲ證明スル
トキハ又之ヲ以テ原狀回復ノ訴ヲ起シ得ルコトト爲セリ例之ハ相
手方ヨリ請求ヲ受ケタル證書ノ反證ヲ保有シタルニ第三者ノ爲メ
ニ之ヲ抑留セラレ先キノ訴訟ニ提出シ得サリシトキノ如キ又ハ或
ル利益アル反證ヲ相手方ノ所爲ニ因リ提出シ能ハサリシトキノ如
キ之レナリ此ノ場合ニ於テハ如何ナル處爲ニ原因シテ遂ニ之レカ
證左ヲ提出シ得サリシトノコトヲ詳ラカニシ原狀回復ヲ求メ得ル

コトト定メタルモノナリ

以上數ヘ來ル處ノ七項ノ原由ハ何レモ原狀回復ノ訴トシテ再審ヲ求
メ得ヘキ場合ニシテ此ノ七項ノ原由中其一ノ理由存スルトキハ原狀
回復ノ訴ヲ以テ再審ヲ求メ得ルモノナリ然レモ第一號ヨリ第四號ニ
至ル原由ニ就テハ其罰セラルヘキ行爲ニ付テノ判決カ確定ト爲リタ
ルカ又ハ其判決確定トナラサルトキニハ證據欠缺即チ證據不十分ナ
ル理由以外ヲ以テ刑事訴訟手續ノ開始若クハ實行ヲ爲シ得サルトキ
ニ限り再審ヲ求メ得ルコトト定メタリ蓋シ第一號ヨリ第四號ニ至ル
各原由ハ民事上ノ判決ヲ左右シタルモノハ刑事上ノ犯罪之レニ與リ
タルモノナルコトヲ理由トシテ原狀回復ヲ求ムルヲ得ルコトトナセ
シモノナルカ故其刑事上ノ裁判確定ニ至ルカ又ハ證據不十分以外ノ
理由ニ因リ刑事訴訟ノ開始又ハ實行ヲ爲シ能ハサルトキノ外ハ直チ

ニ之ヲ理由トシテ原狀回復ヲ求ムルヲ得サルコトトナセシモノナリ
第四百七十條 原狀回復ノ訴ハ原告若クハ被告カ自
己ノ過失ニ非スシテ前訴訟手續ニ於テ殊ニ故障又
ハ控訴若クハ附帶控訴ニ依リ原狀回復ノ理由ヲ主
張スルコト能ハサリシトキニ限り之ヲ爲スコトヲ
得

〔義解〕(三四九) 本條ハ原狀回復ノ訴ヲ爲スニ就キ法律上ノ制限ヲ設
ケタルモノナリ若シ前訴訟ノ際ニ於テ又ハ故障ヲ以テ控訴ヲ以テ或
ハ附帶控訴ヲ以テ原狀回復ノ訴ニ於テ理由トスル所ノモノヲ主張シ
得ヘカリシ場合ニ於テハ原告若クハ被告ハ其訴訟ニ於テ十分之ヲ主
張セサルヘカラス然ルニ其主張シ得ヘキ事ヲ主張セスシテ其訴訟ヲ
經過シタルトキハ過失ノ責ハ自ラ負ハサルヘカラサル處ニシテ自己

ノ過失ヲ理由トシテ再審ヲ求メ得サルコト勿論ナリトス故ニ原狀回復ノ理由ハ備ハレルモノアリトスルモ且ツ其何ツレノ理由ニ因リテ爲ス場合ニ於テモ此ノ理由ハ前訴訟手續ニ於テ主張シ得ヘカラザリシコト若クハ全般ノ事情ヨリ云ヘハ主張シ得ヘキコトナリトスルモ其之ヲ主張セントスル者ニ於テハ適當ノ注意ヲ取リタルニ係ハラズ即チ之ヲ主張セザリシハ自己ノ過失ニ因リテ然ルニアラサルコトヲ證明シテ之レカ訴ヲ爲シ得ヘキモノト定メタリ故ニ特リ原狀回復ノ原由アルノミナラス尙ホ其之ヲ前訴訟手續ニ於テ主張セザリシハ自己ノ過失ニアラザリシコトノ事情ヲ證明シテ初メテ此ノ訴ヲ爲シ得ヘキモノタルコトヲ知ルヘキナリ

第四百七十一條 不服ヲ申立テラレタル判決前ニ同

一ノ裁判所又ハ下級ノ裁判所ニ於テ爲シタル裁判

ニ關スル不服ノ理由ハ再審ヲ求ムル訴ト共ニ之ヲ主張スルコトヲ得但不服ヲ申立テラレタル判決力其裁判ニ根據スルトキニ限ル

〔義解〕(三五〇) 本條ハ原狀回復ヲ求ムル訴訟ノ判決前ニ於テ同一ノ裁判所又ハ下級ノ裁判所ニ於テ爲シタル裁判ニ關スル不服ノ理由ハ或ル場合即チ原狀回復ヲ求ムル處ノ判決カ其裁判ニ根據スルトキニ限リテ再審ヲ求ムル訴ト共ニ之ヲ主張スルヲ得ルコトト定メタリ之レ其判決タル原狀回復ノ訴ヲ提起スル者ニ於テ不當ナリトスル處ニシテ此ノ不當ナリトスル處ノモノカ根據トナリ原狀回復ノ訴ヲ爲スヘキ裁判ヲ導キタルモノタル場合ナルカ故本條ノ如ク之ヲ規定シテ其訴ト共ニ不服ノ理由ヲ主張スルヲ得セシムルコトトナセシハ當然ノ理ナリ若シ此ノ規定ニ反シ此ノ訴ニ於テ其理由ヲ主張シ得サルモ

ノトスルトキハ同一ナル裁判所ニ於テ又ハ下級ノ裁判所ニ於テ下シタル判決ニ於テ主張シタル理由ハ再ヒ之ヲ提出スルヲ得サルコトトナリ再審ノ範圍甚タ縮少スルニ至ルヘキカ故此ノ不服ノ理由ハ原狀回復ノ訴ニ於テモ更ラニ主張スルヲ得ルコトト明定シ以テ再審ノ訴ニ於テ當事者カ争ヒ得ヘキ範圍ヲ示シタルモノナリ

然レモ其不服ノ理由ハ先キノ判決カ之レニ根據シタルトキニ限ルモノナルヲ知ラサルヘカラス若シ枝葉ノコトニ至テハ固ヨリ之ヲ主張シテ争フヲ得ス何トナレハ此等ノコトハ前裁判ニ於テ之ヲ必要ナラストナセシモノナルカ故更ラニ争ヒテ爲サシムルノ要之レアラサルモノナルヲ以テナリ

第四百七十二條 再審ヲ求ムル訴ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所ノ管轄ニ專屬ス

同一ノ事件ニ付キ一分ハ下級ノ裁判所又一分ハ上級ノ裁判所ニ於テ爲シタル數箇ノ判決ニ對スル訴ハ上級ノ裁判所ノ管轄ニ專屬ス

督促手續ニ依リテ區裁判所ノ發シタル執行命令ニ對シ再審ヲ求ムル訴ハ其命令ヲ發シタル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス然レトモ其請求カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ請求ニ付テノ訴訟ヲ管轄スル裁判所ニ專屬ス

〔義解〕(三五二) 本條ハ再審ノ訴ニツキ其管轄ヲ定メタルモノナリ本條ニ於テハ再審ニ關スル訴訟ノ管轄ハ凡テ專屬ト定メタリ故ニ合意ヲ以テ之ヲ動かスコトヲ得ヘカラス必ス本條ニ規定シタル所ノ裁判所ニ於テ之レカ管轄ヲ爲サル可ラス即チ再審ノ訴ハ不服ヲ申立テ

ラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所ニ於テ之レカ管轄ヲ爲サ、ルヘカラ
 ス蓋シ已ニ見ルカ如ク再審ノ訴ハ先キニ當事者ノ間ニ於テ争フタル
 事情以外ニ原因シテ其訴訟ノ再度ノ審理ヲ求ムルモノナルカ故之ヲ
 先キニ裁判ヲ下シタル裁判所ニ於テ管轄スヘキモノト定メタルハ適
 當ノ規定ト云ハサルヘカラス而シテ同一ノ事件ニツキ其一分ハ下級
 裁判所ニ於テ裁判ヲ受ケ他ノ一分ハ上級裁判所ニ於テ裁判ヲ受ケタ
 ル場合ニ於テ數个ノ判決ニツキ再審ヲ求ムルモノナルトキハ上級裁
 判所ノ管轄ニ專屬スヘキモノト定メタルハ例之ハ同一ノ人ヨリ證書
 ニ因レル請求ヲ受ケ一ノ請求ハ區裁判所ノ管轄ナルヨリシテ區裁判
 所ノ判決ヲ受ケ他ノ訴訟ハ地方裁判所ノ管轄トシテ地方裁判所ニ於
 テ之レカ判決ヲ受ケタルトキ其證書ハ共ニ偽造ナリトノ理由又ハ此
 ノ訴訟ノ敗ハ偽證ニ原因シタリトノ理由其他再審ノ訴ヲ爲スヘキ理

由ヲ以テ之レカ再審ヲ求ムルトキハ其上級審タル地方裁判所ニ二個
 ノ訴訟ヲ并セ提起スヘキモノト定メタルモノナリ之レ其再審タル同
 一ノ事ヲ以テ争ヒテ爲スモノナルカ故其管轄ヲ上級審ニ專屬セシム
 ルハ當事者ニ於テ頗ル利便ナルノミナラス裁判上ニ於テモ亦手數ヲ
 省畧シテ迅速ニ結局ヲ得ルノ利益アルカ故此ノ如ク之ヲ規定シタル
 モノナリ

督促手續ニ依リテ區裁判所ヨリ發スル所ノ執行命令トハ即チ支拂命
 令ヲ發シ其命令ヲ看過シタル爲メ區裁判所ヨリ發スル所ノ執行力ア
 ル命令ニシテ此ノ執行命令ニ對シ再審ノ訴ヲ爲ス場合ニ於テハ之レ
 カ管轄ハ其執行命令ヲ發シタル裁判所タルコトヲ定メタリ然レモ其
 争ヒノ目的タル請求カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサル場合即チ裁判所構
 成法ノ規定スル處ニ因リ其管轄權區裁判所ニ屬セサルモノナルトキ

ハ其管轄裁判所ニ於テ之レカ管轄ヲ爲スヘキモノト定メタリ
凡テ本條ハ管轄ニ關スル規定ヲ爲シタルモノニテ其此ノ如ク之ヲ定
メタルモノハ先キノ訴訟ト同一ノ訴訟ニツキ他ノ格別ナル原因ニ依
リ其判決ヲ改メノコトヲ求ムルモノナルカ故先キノ裁判ヲ爲シタル
裁判所ニ再審ヲ爲サシムルコトト定メタルモノナリ

第四百七十三條

訴ノ提起及ヒ其後ノ訴訟手續ニハ

- 以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケサル限りハ其訴
- ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲ス可キ裁判所ノ訴訟手續
- ニ關スル規定ヲ準用ス

〔義解〕(三五二) 本條ハ訴訟手續ニ關スル規定ニシテ即チ訴ノ提起ト
ハ出訴ヲ爲ス方法ノコトニテ其後ノ手續等凡テ訴訟ノ手續ハ再審ノ
訴ニ於テモ殊ニ本條以下ニ於テ別段ノ規定ヲ爲シタルモノ之レアラ

サル以上ハ其裁判所ニ於テ行フヘキ普通ノ訴訟手續ニ從ヒ辯論ヲ命
シ及ヒ裁判ヲ爲スヘシトノコトナリ之レ再審ノ訴ニ就キ事實ヲ審案
シ之レカ判決ヲ與フヘキ手續モ亦普通ノ訴ト別異ニスヘキ必要之レ
アラサルヲ以テ此ノ如ク定メタルモノナリ唯本條以下ニ於テ殊ニ其
手續ヲ定メタルモノハ之レニ因ラサルヘカラサルコト勿論ナリトス
第四百七十四條 訴ハ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ起

ス可シ

此期間ハ原告若クハ被告カ不服ノ理由ヲ知リタル
日ヲ以テ始マル若シ原告若クハ被告カ判決ノ確定
前ニ不服ノ理由ヲ知リタルトキハ判決ノ確定ヲ以
テ始マル

判決確定ノ日ヨリ起算シテ五ヶ年ノ滿了後ハ訴ヲ

爲スコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ第四百六十八條第四號ノ場合ニ之ヲ適用セス此場合ニ於テ其訴ノ提起ノ期間ハ原告若クハ被告又ハ其法律上代理人カ送達ニ因リ判決アリタルコトヲ知りタル日ヲ以テ始マル

〔義解〕(三五三) 本條ハ再審ノ訴ヲ提起スルノ期間ニ關スル規定ナリ此ノ期間ハ凡テ不變期間ト定メ普通上訴ノ期間ト同シク一个月ト定メタリ然レモ再審ノ訴ハ法律上ニ於テ限ラレタル理由ニ基クヘキモノニテ其理由ハ或ル時日ニ於テ必スシモ知ルヲ得ヘキモノニ之レアラサルカ故第二項ニ於テ此ノ期間起算ノ時ヲ規定シテ原告若クハ被告タル再審ノ訴ヲ提起スヘキ者カ不服ノ理由即チ再審ノ訴ヲ提起シ得ヘキ事實上ノ理由ヲ知りタル日ヲ以テ始マルモノト爲セリ故ニ再

審ノ訴ヲ提起セント欲スル者ニ於テハ其再審ノ理由ハ何日ニ於テ之ヲ知リタルヤヲ證明シ之レヨリ三十日ノ不變期間内ニ於テ此ノ訴ヲ提起セサルヘカラサルナリ然レモ裁判確定ノ前ニ於テ此ノ理由ノ存在ヲ知り得タルトキハ其確定ノ日ヨリ起算シテ三十日ノ起訴期間ヲ與ヘタリ之レ再審ノ訴ハ確定ノ判決ニ對シ再度ノ審理ヲ同一審級ノ裁判所ニ求ムルモノナルカ故其確定以前即チ普通上訴ノ期間内ハ再審ノ訴ヲ起スヘキ期間ノ進行ヲ初メサルモノト定メタルモノナリ

第二項ノ規定ヨリスルトキハ再審ノ訴ヲ爲スヘキ理由ヲ知り得タルトキハ之レヨリ起算シテ三十日ノ期間内ニナストキハ幾數年ノ後ニ至ルモ再審ノ訴ヲ起シ得ルコトト爲レモ若シ此ノ如クスルトキハ數十年ノ後ニ至リ已ニ確定シタル判決ヲ動かサント試ミルカ如キモノアルヲ保セス而シテ其之ニ對抗スヘキ地位ニ立ツ者ニ於テハ之レニ

對スル防禦ノ道ヲ失フコト少ナカラサルニ至ルヘキカ故之ニ關シ
或ル制限ヲ設クヘキハ最モ必要ナリトス即チ判決確定ノ日ヨリ起算
シテ五個年ノ滿了後ニ於テハ此ノ訴ヲ起スコトヲ得スト定メタル所
以ニシテ即チ出訴ノ時日ヲ制限シタルモノナリ

末項ハ前二項ノ規定即チ再審ノ原由ヲ判決確定以前ニ知ルト雖モ其
再審ヲ求ムル期間ノ進行ハ確定ノ日ヨリ初マルトノ規定及ヒ判決確
定ノ日ヨリ起算シテ五個年ノ滿了後ニ於テハ此ノ訴ヲ起スコトヲ得
ストノ規定ハ第四百六十八條第四號ノ原由ニ因リ取消ノ訴ヲ以テ再
審ヲ求ムル場合ニハ之ヲ適用セストノコトヲ定メタリ而シテ此ノ場
合ニ於テハ原告若クハ被告又ハ其法律上代理人カ送達ニ因リ判決ア
リタルコトヲ知リタル日ヲ以テ初マルコトトナセリ蓋シ第四百六十
八條第四號ノ場合ハ訴訟手續ニ於テ原告若クハ被告カ法律ノ規定ニ

從ヒ代理セラレザリシコトヲ理由トシテ再審ノ訴ヲ求ムル場合ナリ
故ニ此ノ場合ニ於テハ判決確定以前ト雖其送達ニ因リ當事者ニ於テ
此ノ事實ヲ知リタル日ヨリ起算シテ三十日ノ不變期間内ニ於テ此ノ
訴ヲ爲サ、ルヘカラサルモノト定メタリ之レ自己ノ代理ニアラサル
者カ代理トシテ不法ノ判決ヲ受ケタルモノナルカ故已ニ之ヲ知り得
タル以上ハ直チニ取消ノ訴ヲ盡サ、ルヘカラサルコト當然ノコトダ
ルヲ以テナリ此ノ理由ヨリシテ假令ヒ幾數年ノ後ニ至ルモ其判決ア
リタルコトヲ知ラサル場合ニ於テハ其訴ヲ起サント欲スル者ニ對シ
テハ此ノ判決ヲ強行セシムルヲ得サルコトニテ假令ヒ代理者ナリト
稱スル者ニ對シ其判決確定シタリトスルモ之レカ爲メニ取消ノ訴ヲ
起スヘキ權限ノ上ニ制限ヲ受クヘキ理由之レアルヘカラス之レ確定
後五個年ノ滿了後ハ起訴ノ權ナシトノ規定モ此場合ニ限り適用セサ

ルコトト定メタル所以ニシテ切ニ之ヲ云ヘハ此場合ニ於テハ其訴ヲ起サント欲スル者ニ對シテハ此ノ判決ハ確定ノ効ヲ生シ得サルモノト云ハサルヘカラサルナリ何トナレハ其適法ニアラサル代理者ニ於テ裁判ヲ受ケタルハ恰モ自ラ裁判ヲ受ケサルト同一ノコトタルヲ以テナリ

第四百七十五條 訴狀ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコト

ヲ要ス

第一 取消又ハ原狀回復ノ訴ヲ受クル判決ノ表示

第二 取消又ハ原狀回復ノ訴ヲ起ス旨ノ陳述

此他訴狀ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作り且不服ノ理由ノ表示此理由及ヒ不變期間

ノ遵守ヲ明白ナラシムル事實ニ付テノ證據方法又如何ナル程度ニ於テ不服ヲ申立テラレタル判決ヲ廢棄若クハ破毀ス可キヤノ申立又本案ニ付キ更ニ如何ナル裁判ヲ爲ス可キヤノ申立ヲモ掲ク可シ

〔義解〕(三五四) 本條ハ再審ノ訴ヲ爲スニ付キ其起訴ノ手續中ノ一ニアル訴狀ニ表示ス可キ事項ヲ定メタルモノナリ本條ハ第百五條準備書面ニ關スル規定ト相伴フヘキモノニシテ即チ此ノ訴狀ニハ該條ニ於テ定メタル準備書面ニ要スヘキ表示ヲ爲シタル上更ラニ此ノ二項ヲ併セ表示セサルヘカラサルモノタルコトヲ知ル可シ第一ハ取消ノ訴又ハ原狀回復ノ訴ヲ受クル判決ノ表示ニシテ此ノ訴ヲ受クル判決トハ即チ其之レニ對シテ爲ス處ノ判決ノコトニシテ凡テ再審ノ訴ハ或ル判決ニ對シ此ノ判決ハ此ノ如キ理由ニ因リ取消サルヘカラス

又ハ原狀回復ノ理由アリト爲スコトナルカ故其攻撃スル處ノ判決ヲ表示セサルヘカラス之レ恰モ控訴若クハ上告ノ場合ニ於テ其不當ナリトスル原判決ヲ表示セサルヘカラサルト同一ノ理由ニ係ルモノナリ即チ再審ヲ求ムル基礎タル處ノ判決ヲ表示スヘシト定メタルモノナリ第二ニハ此ノ訴ヲ起ス旨ノ陳述ニシテ即チ此ノ判決ニ對シ再審ヲ求ムルトノコトヲ申立テサルヘカラサルコトト爲セシモノナリ此ノ二項ハ普通ノ出訴方法ノ外ニ要スルコトニシテ準備書面ニ關スル一般ノ規定ハ此ノ外ニ必要ナルコトヲ知ラサルヘカラサルナリ而シテ尙ホ之レニ加フルニ不服ノ理由ノ表示即チ如何ナル原由アルカ故之レニ對シテ再審ヲ求ムルトノコトヲ明ラカニシ且此ノ原由ハ如何ナル時日ニ於テ之ヲ知り得タリトノ事實ヲ證スヘキ方法又此ノ判決ハ其何レノ部分カ不都合ナルニ付キ如何ナル程度ニ於テ廢棄又ハ破

毀セララルヘキモノニテ結局此ノ訴ニツキ如何ナル裁判ヲ受クルヲ以テ當然ト爲スヤノコトヲ申立テサルヘカラス之レ再審ノ訴ヲ爲スニツキ必要ノ事項ニシテ即チ訴狀ニ於テハ茲ニ規定シタル各事項ヲ表示セサルヘカラサルモノナリ

第四百七十六條 判然許ス可カラサル訴又ハ判然法

律上ノ法式ニ適セス若クハ其期間ノ經過後ニ起シタル訴ハ裁判長ノ命令ヲ以テ之ヲ却下ス可シ此却下ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

〔義解〕(三五六) 本條ハ再審ノ訴ヲ受ケタル裁判所ノ調査方法ヲ定メタルモノニシテ明瞭ニ其訴ヲ許スヘカラサルモノナルトキ又ハ明瞭ニ法律上ノ方式ニ適セサル訴タルトキ又ハ其訴ヲ起シタル時日カ期間ヲ經過シタルモノナルコト明瞭ナルトキニ於テハ裁判長ノ命令ヲ

以テ訴狀ヲ却下スヘキモノト定メタリ之レ再審ノ訴ヲ爲スニ就テハ或ル限由ヲ限定シタルモノアリ又或ル期間ヲ定メタルモノアリ又方式ノ定マレルモノアルカ故其訴狀ニ就テ之ヲ調査シ不適法ナルコト明瞭ナルニ至テハ之レカ爲メニ口頭辯論ヲ開ク等訴訟ヲ進行セシムルノ必要之レアラサルカ故其訴狀ヲ却下スヘシト定メタルモノナリ而シテ此ノ却下ニ就キ即時抗告ヲ爲スコトヲ得セシメタルモノハ或ハ此ノ却下ノ理由カ誤謬ニ出ルコト無シト云フ可ラサルカ故抗告ノ方法ヲ以テ却下ニ對スル當事者ノ權利伸張方法ト定メタルモノナリ

第四百七十七條 原告ハ口頭辯論ノ期日ニ於テ相手方ノ陳述ノ有無ニ拘ハラズ再審ヲ求ムル理由及ヒ法律上ノ期間ノ遵守ヲ明白ニスル事實ヲ説明ス可シ

〔義解〕(三五七) 本條ニ口頭辯論期日ニ於テ原告ヲシテ相手方ノ陳述ノ有無ニ拘ハラズ再審ヲ求ムル理由ト法律上期間ノ遵守トヲ説明スヘキコトト定メタルモノハ此ノコトタル敢テ相手方ノ抵抗ヲ俟タズ裁判所ハ職權ヲ以テ之レカ調査ヲ爲シ若シ此ノ理由ナシトスルカ又ハ期間ヲ經過シタルモノト認メタルトキハ此ノ訴ヲ却下スヘキモノナルカ故假令此ノ事ニ關シ相手方ハ爭フ處ナシトスルモ原告ハ十分明白ニ之ヲ説明スヘキ責アルモノト云ハサルヘカラサルナリ之レ本條ノ規定アル所以ナリ

第四百七十八條 許ス可ラサル訴又ハ法律上ノ方式ニ適セス若クハ其期間ノ經過後ニ起シタル訴ハ職權ヲ以テ判決ニ因リ不適法トシテ之ヲ棄却ス可シ

〔義解〕(三五八) 蓋シ再審ナルモノハ確定ノ判決ニツキ之ヲ動かサシ

コトヲ求ムルモノナルカ故若シ法律ニ於テ定メタル再審ノ原由ヲ有セサルカ又ハ法律上ノ方式ヲ備ヘサルトキ又ハ已ニ法定ノ期間ヲ經過シタルモノナルトキハ裁判所ハ之レニ對シ調査ヲ爲スノ責任ナク又之ヲ調査スヘキ權限ヲ有セサルモノト云ハサルヘカラス故ニ敢テ相手方ノ申立ニ關セス職權ヲ以テ之レニ對シ不適法ナリトノ理由ヲ以テ棄却スヘキモノトナセリ之レ大ニ普通ノ訴訟ト相異ナル點ニシテ再審ニ於テ特ニ存スル處ノモノナリトス蓋シ普通ノ訴訟ニ於テハ裁判官ハ原被ノ争ハサル點ニ涉リ裁判ヲ與フルヲ得ス又原被ノ争ヒト爲レル點ニ就テハ必ス裁判ヲ與ヘサルヘカラサル責任アルモノナリ而シテ再審ノ訴ニ至テハ一ノ確定シタル判決ノ効力ニ服從セサルヘカラサル理由ヨリシテ法律ニ於テ特ニ再審ノ原由ヲ定メタル場合ニアラサルヨリハ其裁判ヲ與ユルノ責任ナク又之ヲ與フルノ權限モ

之レアラサルコトトナルモノナリ故ニ再審ノ原由アルヤ否ヤ又之レアリトスルモ其訴ヲ起シ得ヘキモノナルヤ否ヤハ裁判官ノ職權ヲ以テ之レカ調査ヲ爲シ若シ不適法トスルトキハ棄却ノ裁判ヲ下シ得ヘキコトト定メタルモノナリ之ヲ前條ノ規定ト相照ラシテ規定ノ周到ヲ窺フヘキモノナリ

第四百七十九條 本條ニ付テノ辯論及ヒ裁判ハ不服申立ノ理由ノ存スル部分ニ限り更ラニ之ヲ爲ス可シ

裁判所ハ本案ニ付テノ辯論前ニ再審ヲ求ムル理由及ヒ許否ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ本案ニ付テノ辯論ハ再審ヲ求ムル理由及ヒ許否ニ付テノ辯論ノ續行ト看做ス

〔義解〕(三五九) 本條ハ再審ノ訴ニツキ調査ヲ爲スヘキ限度ヲ定メタルモノナリ即チ本案ニ付テノ辯論及ヒ裁判ハ不服申立ノ理由ノ存スル部分ニ限り更ラニ之ヲ爲スヘキモノニシテ其本案ノ事實ニシテ不服申立ノ理由ニ關係アラサルコトニ至テハ調査ヲ爲スノ責之レアラサルモノナリ例之ハ家屋引渡并ニ家賃請求ノ事件ニツキ再審ヲ求ムルモノアリ而シテ其家賃ノ未支拂ニツキ偽造證書又ハ偽證ノ事實アリシトシテ再審ヲ求ムルトキノ如キ其家屋引渡ノコトニ就テハ關係ヲ有セサルモノナルトキハ其家賃ニ關スル責任ノ部分ノミニツキ再審ノ訴ヲ受ケタル處ノ裁判所ニ於テ調査ヲ爲スヘキモノニテ其家屋引渡ノコトニ就テハ裁判ヲ爲サ、ルカ如キコトヲ云フ即チ不服申立ノ理由ニ包含セラルヘキ部分ニ限り辯論及ヒ裁判ヲ爲スヘキモノニテ其他ニ及フコトヲ得サルモノタルコト之レ本條規定ノ精神ナリト

ス

而シテ裁判所ハ本案ニ付テノ辯論ヲ爲サシムル以前ニ於テ先ツ再審ヲ求ムルノ理由及ヒ其許否ニツキ辯論ヲ爲サシメ及ヒ裁判ヲ爲スコトヲ得ルコトトナセリ此ノ裁判ニ於テ本案ノ調査ヲ爲スヘシト決定スルトキハ其續行ト看做スコトニテ別段更メテ再審ノ訴ヲ爲スノ手續ヲ要セサルモノナリ即チ本案ノ調査ハ再審ノ許否ノ調査ト相續イテ之ヲ行フヘシトノコトヲ規定シタルモノナリ恰モ之レ妨訴ノ抗辯ニ關シ之レカ裁判ヲ與ヘ之レト續行シテ本案ノ調査ヲ爲スト同一ノコトナリトス

第四百八十條 原告ノ不利益トナル判決ノ變更ハ相手方カ再審ヲ求ムル訴ヲ起シテ變更ヲ申立テタルトキニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

〔義解〕(三六〇) 原告ノ不利益トナル判決ノ變更トハ再審ノ訴ヲ提起シタル者ノ爲メニ却テ不利益トナルヘキコトニ判決ヲ動かス場合ヲ云フ蓋シ再審ヲ求ムル者ニ於テハ自己ノ利益ヲ全フセシカ爲メニ此ノ訴ヲ起スモノニテ其確定ノ判決ニ對シ調査ヲ求ムルノ意モ此ノ外ニ出ツ可ラス然ルニ却テ其判決ヲ變更シテ再審ノ訴ヲ起シタル者ノ爲メニ不利益ナルコトト爲ストキハ特リ其訴ヲ起シタル者ノ意思ニ反スルノミナラス又此ノ點ニ關シテハ曾テ訴ヲ受ケサルコトヲ命令スルニ至ルモノニテ裁判所ノ權限ニ於テ許スヘカラサルコトト云ハサルヘカラス故ニ此ノ事ニ付キ相手方共ニ再審ヲ求メ其變更ヲ請求スルニアラサレハ裁判所ハ原告ニ不利益トナルヘキコトニ判決ヲ變更スルヲ得サルコトトナセシモノナリ之レ裁判所ハ訴ヲ受ケサルコトニツキ審理ヲ及ホスコトヲ得サル原則ヨリ生スル處ノ規定ナリ

トス

第四百八十一條 訴カ上告裁判所ニ屬スルトキハ上告裁判所ハ再審ヲ求ムル理由及ヒ其許否ニ付テノ辯論ノ完結カ係争事實ノ確定及ヒ斟酌ニ繫ルトキト雖モ其完結ヲ爲ス可シ

〔義解〕(三六一) 本條ハ再審ヲ求ムル訴訟ノ本案カ上告裁判所ニ繫屬スル場合ニ關スル規定ナリ此ノ場合ニ於テハ其理由カ上告ニ於ケル係争事實ノ確定又ハ斟酌ニ繫ルトキト雖モ其上告ハ之レカ爲メニ中止スルコトナク之ヲ完結スヘシトノコトナリ蓋シ上告ニ於テハ第二審ヲ經テ定マレル事實ニツキ法律上ノ調査ヲ爲スニ過キサルコトナルカ故再審ヲ以テ争フ處ノ歸局ニ因リ其第二審ノ判決シタル事實ハ動シトスルモ之ヲ以テ上告審ニ繫屬セル訴訟ノ事實ニ援引シ法律上

ノ調査ヲ變更スルコトヲ得ヘカラス故ニ其訴訟已ニ上告裁判所ニ繫
屬シタルトキハ再審ノ訴ニ關スル訴訟ノ狀況ヲ以テ上告裁判所ノ審
理ヲ遮リ得サルモノト爲シ上告ノ完結ヲ爲スヘキコトト規定シタル
モノナリ

第四百八十二條 上訴ハ訴ニ付キ裁判ヲ爲シタル裁
判所ノ判決ニ對シ一般ニ爲スコトヲ得ヘキトキニ
限り之ヲ爲スコトヲ得

〔義解〕(三六二) 本條ハ再審ノ訴ニツキ判決ヲ與ヘタル其判決ニ關ス
ル上訴ノコトヲ定メタルモノナリ此ノ上訴ハ普通上訴ノ場合ト同シ
ク訴ニツキ裁判ヲ爲シタル裁判所ノ判決ニ對シ一般ニ爲スコトヲ得ヘ
キトキニ限り之ヲ爲シ得ルモノト定メタリ故ニ地方裁判所ニ於ケル第
一審ノ判決ニ關シ再審ヲ求メ之レニ對シ判決ヲ與ヘタルトキニ於テ

其判決ニ付キ其上訴ヲ爲サントスルハ管轄控訴院ニ向ヒ之ヲ爲シ又
控訴院ニ於テ與ヘタル判決ニ付テハ大審院ニ向テ上訴ヲ爲スカ如ク
凡テ上訴ノ手續ニ從ヒ之ヲ爲シ得ヘキトキニ限り此ノ判決ニ就テモ
亦上訴ヲ爲シ得ヘキモノナルコトヲ知ルヘキナリ

第四百八十三條 第三者カ原告及ヒ被告ノ共謀ニ因
リ第三者ノ債權ヲ侵害スル目的ヲ以テ判決ヲ爲サ
シメタリト主張シ其判決ニ對シ不服ヲ申立ツルト
キハ原狀回復ノ訴ニ因レル再審ノ規定ヲ準用ス
此ノ場合ニ於テハ原告及ヒ被告ヲ共同被告トス

〔義解〕(三六三) 本條ハ第三者ニ於テ原告及ヒ被告カ詐害ノ目的ヲ以
テ或ル判決ヲ受ケタルコトヲ理由トシ之レカ取消ヲ求ムル場合ヲ定
メタルモノナリ例之ハ甲者乙者ニ對シ夥多ノ負債ヲ有シ其期ノ近ク

ヲ知り更ラニ虚偽ノ負債ヲ設ケ丙者ノ名義ヲ以テ甲者ニ對シ或ル判決ヲ受ケ之ヲ執行シテ乙者ノ權利ヲ詐害セントスルカ如キ場合ニ於テハ乙者ハ再審ノ規定ヲ準用シテ此ノ判決ニ付キ原狀回復ノ訴ヲ爲スコトヲ得ヘキモノナリ而シテ此ノ場合ニ於テハ先キノ判決ヲ導キタル原告及ヒ被告ヲ共同被告人トシテ乙者ヨリ起訴スルコトヲ得ルモノト爲セリ之レ乙者ハ其判決ニ付テハ第三者ノ地位ニ立ツモノナレド此ノ判決ヲ無効トスルニアラサレハ自己ノ債權ヲ満足ニ行フコトヲ得ヘカヲサルモノナルカ故此ノ判決ニツキ再審ヲ求ムルノ手續ニ因リ其詐害行爲タルコトヲ證明シテ其無効ノ宣告ヲ求メ得ヘキコトト爲セシハ最モ適當ノ規定ト云ハサルヘカヲサルナリ

第五編 證書訴訟及ヒ爲替訴訟

本編ハ證書訴訟及ヒ爲替訴訟ニツキ格段ナル規定ヲ設ケタルモノニ

テ此ノ種ノ訴訟タル其權利ノ基ク處判明ニシテ簡短ニ曲直ヲ斷シ得ヘキモノナルカ故之ヲ審理スルノ上ニ於テ大ニ便宜ノ方法ヲ設クルコトヲ得ルモノナリ又或ル點ヨリ之ヲ云ハハ其訴訟ヲシテ急速ニ結了セシムルニアラサレハ債權者ニ困難ヲ生スルモノ大ナルカ故殊ニ本編ニ於テ證書訴訟及ヒ爲替訴訟ヲ別異トナシ債權者ヲ保護スルノ方法ヲ周到ナラシメタルモノナリ

第四百八十四條 一定ノ金額ノ支拂其他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ハ其請求ヲ起ス理由タル總テノ必要ナル事實ヲ證書ニ依リ證スルコトヲ得ヘキトキハ證書訴訟ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得

〔義解〕(三六四) 一定ノ金額ノ支拂トハ金千圓ヲ支拂フト云フカ如キ

又其他ノ代替物トハ米麥若クハ木材ノ如キ又有價證券トハ公債證書ノ如キ株券ノ如キ類ナリ而シテ此等ノ一定ノ數量即チ米又ハ麥何百石木材幾百^〇或ハ某會社株券何百圓ト云フカ如キモノヲ目的トシテ定メタル關係ニ於テハ其請求ヲ爲シ得ヘキ理由ノ凡テテ證書ノミニ因リ證明シ得ルトキニ限リ證書訴訟トシテ之レカ主張ヲ爲シ得ヘシトノコトナリ故ニ證書訴訟トシテ訴ヲ起サントスルニハ左ノ條件ヲ要スルコトヲ知ルヘシ

- 第一 請求ノ目的カ金錢又ハ代替物タルコト
 - 第二 其金額又ハ數量カ一定シタルコト
 - 第三 其請求ノ理由タル凡テノ事實ヲ證書ニ因リ證明シ得ルコト
- 以上ノ三要件ヲ具備スルニ於テハ之ヲ證書訴訟トシテ請求スルコトヲ得ルモノト爲セリ若シ此ノ條件ニシテ備ハラサルトキハ其請求ハ

ノ普通ノ訴訟手續ニ因ルヘキモノニテ本編ニ因リ訴ヲ起スコトヲ得サルモノナリトス

第四百八十五條 訴狀ニハ證書訴訟トシテ訴フル旨ノ陳述ヲ掲ケ且證書ノ原本又ハ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

〔義解〕(三六五) 本條ハ起訴ノ方法ヲ定メタルモノニテ訴狀ニ於テハ必ス證書訴訟トシテ請求スルトノ次第ヲ掲ケサルヘカラス若シ之ヲ掲ケサルトキ及ヒ此訴狀ト共ニ其證書ノ原本又ハ其謄本ヲ添ヘサルトキニ於テハ普通ノ訴訟トシテ審理スヘキモノニテ裁判所ハ之ヲ以テ證書訴訟トシテ審理スルコト之レアラサルモノト爲セリ之レ殊ニ此ノ種訴訟ヲ分別シテ格段ナル取扱ヒヲ爲スコトト爲セシカ故其出訴ノ手續ニ付テモ此ノ如キ規定ヲ設ケタルモノナリ

第四百八十六條 本案ノ辯論ハ妨訴ノ抗辯ニ基キ之
ヲ拒ムコトヲ得ス然レトモ裁判所ハ申立ニ因リ又
ハ職權ヲ以テ此抗辯ニ付キ辯論ノ分離ヲ命スルコ
トヲ得

〔義解〕(三六六) 本條ハ證書訴訟ニツキ妨訴ノ抗辯ヲ爲シタル場合ニ
關スル規定ナリ證書訴訟ハ凡テ訴求ノ事實確實ニシテ且ツ急速ヲ要
スルモノナルヲ以テ妨訴ノ抗辯ヲ提出シテ本案ノ辯論ヲ拒ムヲ得サ
ルモノト定メタリ故ニ妨訴ノ抗辯ヲ爲スモ本案ノ辯論ヲ續行シ本案
ト共ニ其裁判ヲ與フルヲ以テ本則トス然レモ之レ一般ノ上ヨリ定メ
タルモノニテ若シ裁判所ニ於テ之レヲ分離スルノ必要アリト認めタ
ルトキハ當事者ノ申立ニ因リ又ハ當事者ノ申立ナキモ職權ヲ以テ之
レカ分離ヲ命シ妨訴抗辯ノミニ就キ先ツ判決ヲ爲シ得ルモノト定メ

タリ之レ事情ニ從ヒ必要ノ生スルアラフコトヲ慮リ此ノ規定ヲ爲セ
シモノナリ

第四百八十七條 反訴ハ之ヲ爲スコトヲ得ス
證書ノ眞否及ヒ第四百八十四條ニ掲ケタル以外ノ
事實ニ關シテハ書證ノミニテ以テ適法ノ證據方法ト
爲スコトヲ得
書證ノ申出ハ證書ノ提出ヲ以テノミ之ヲ爲スコト
ヲ得

〔義解〕(三六七) 本條モ亦證書訴訟ニ關シ特別ノ事情ヨリ出テタル規
定ニシテ證書訴訟ニ於テハ反訴ハ一切之ヲ爲シ得サルモノト定メタ
リ之レ證書訴訟ハ證書其物ノミニ付キ訴訟ヲ終結セシムルノ精神ナ
ルカ故若シ反訴ヲ許シ之レニ關シ他ノ請求ヲ審理スルコトトナルト

キハ法律ニ於テ證書訴訟ヲ特別ニ規定シタル所以ノ精神ヲ貫ク能ハサルニ至ルヘキカ故茲ニ反訴ヲ許サ、ルコトト定メ證書訴訟ノ目的ヲ貫カシムルコトト爲セシモノナリ

此ノ理由ヨリシテ證書ノ眞否其他ノ請求ト雖モ書證ノミニ因リ争ヒ得ヘキトキニ限リ適法ノ證據方法ト爲スモノニテ若シ書證ヲ以テ證明シ能ハサル事項ニ至テハ證書訴訟ニ於テ之ヲ主張スルヲ得サルモノト定メタリ之レ證書訴訟ニ於テハ事實ノ紛亂ヲ避ケ單ニ書面ノミニ基キ其訴訟ヲ結局セシメント欲シタルニ由ルモノナリ

此ノ如キ理由ニ依リ此ノ規定ヲ爲シタルカ故末項ハ書證ノ申出ハ證書ノ提出ヲ以テノミ之ヲ爲スヲ得ルコトト定メタルモノニテ即チ書證ニ因リテ或ル事實ヲ證明セントスルニハ證書ヲ提出セサレハ之ヲ適法ノ證據方法ト爲サ、ルノ意ナリ之レ已ニ訴訟ノ本體カ證書ノミ

ノ審理ニ關ハルコトタルヲ以テ書證ノ申出ニ就テモ亦證書以外ニ涉ルヲ得セシメサルモノト定メタルハ最モ適當ノ規定ト云ハサルヘカラサルナリ

第四百八十八條 原告ハ口頭辯論ノ終結ニ至ルマテ

ハ被告ノ承諾ヲ要セスシテ通常ノ手續ニテ訴訟ヲ

繫屬セシメテ證書訴訟ヲ止ムルコトヲ得

〔義解〕(三六八) 本條ハ證書訴訟ノ休止ニ關スル規定ナリ已ニ見來ルカ如ク證書訴訟ナルモノハ凡テノ請求ヲ證書ニ因リテノミ主張スルヲ得又凡テノ事實モ證書ニ因リテノミ證明シ得ラル、トキニ限レルモノナルヲ以テ若シ原告ニ於テ證書ノミヲ以テ十分其事實ヲ證明スルニ足ラスト思量スルトキニ於テハ之ヲ通常ノ訴訟手續ニ從テテ訴求スルヲ以テ甚々利益アルコトト云ハサルヘカラス何トナレハ通常

ノ訴訟手續ニ從フトキハ凡テノ立證方法ヲ以テ其請求ヲ主張スルヲ得ルモ證書訴訟ニ於テハ唯書證ニ因ルノ外其請求ヲ證明スルコトヲ得サルヲ以テナリ而シテ證書訴訟ナルモノヲ設ケテ簡單ナル立證ニ因リ迅速ニ訴訟ヲ終結セシムルノ道ヲ定メタルモノハ要スルニ原告ノ利益ヲ慮リ請求ノ權利ヲ保護スルニ出タルモノナルヲ以テ原告ニ於テ已ニ普通ノ訴訟手續ニ因ルヘキコトヲ認メ證書訴訟ヲ止メント欲スルニ於テハ口頭辯論ノ終結ニ至ルマテハ被告ノ承諾ヲ經ルヲ要セス之ヲ休止シテ普通ノ訴訟手續ヲ以テ其訴訟ヲ進行セシムルヲ得ルコトト定メタリ畢竟之レ證書訴訟ヲ設ケタル所以ノ精神原告ノ利益ヲ目的トシタルモノナルヲ以テ其利益ノ爲メニ之ヲ普通ノ手續ニ變更スルノ權利ヲ與ヘタルハ最モ適當ノコトト云ハサルヘカラサルナリ

第四百八十九條 訴ヲ以テ主張シタル請求カ理由ナ

シト見エ又ハ被告ノ抗辯ニ因リ理由ナシト見ユルトキハ原告ノ請求ヲ却下ス可シ

證書訴訟ヲ許ス可カラサルトキ殊ニ適法ノ證據方法ヲ以テ原告ノ義務タル證據ヲ申出テス又完全ニ之ヲ擧ケサル場合ニ於テハ被告カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ法律上ノ理由ナキ異議若クハ證書訴訟ニ於テ許ササル異議ノミヲ以テ訴ニ對シ抗辯シタルトキト雖此訴訟ニ於テハ其訴ヲ許ササルモノトシテ之ヲ却下ス可シ

〔義解〕(三六九) 本條モ亦證書訴訟ニ付キ格段ナル規定ヲ設ケタルモノナリ若シ訴ヲ以テ主張シタル請求ニシテ其理由ナシト見ユルトキ

ハ被告抗辯ノ有無ニ拘ハラズ原告ノ請求ヲ却下スヘキモノト爲セリ
故ニ證書訴訟ニ於テハ裁判所ハ職權上其事實ヲ審案シテ被告ノ申立
ニ係ハラズ其請求ヲ却下シ得ヘキモノタルコトヲ知ラサル可ラス
而シテ其訴訟カ證書訴訟タルノ要件ヲ具ヘザルトキ即チ證書訴訟ヲ
許ス可ラサル處ノコトヲ以テ訴求ノ事實ヲ證明セントスルトキハ被
告カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ法律上ノ理由ヲ具ヘテ異議ヲナ
サストモ又ハ證書訴訟ニ於テ許サ、ル異議即チ證書以外ノコトヲ以
テ之ヲ争ハントスル場合ニ於テモ之ヲ證書訴訟トシテノ訴ニ於テ
ハ許サ、ルトノコトヲ以テ却下スヘキモノト定メタリ故ニ此ノ却下
ハ證書訴訟トシテ訴ヲナシ得ストノコトヲ以テ爲スヘキモノニテ普
通ノ訴訟手續ニ從フトキハ更ラニ之ヲ訴フルコトヲ得ヘキモノナリ
而シテ其却下ノ場合ハ適法ノ證據法即チ證書ヲ以テ被告ニ此ノ義務

ノ存スルコトヲ申出テサル場合ハ勿論完全ニ此ノ證據ヲ舉ケ能ハサル場合ニ於テモ亦同一ノコトナリ故ニ其訴訟カ證據訴訟タル要件ヲ具フルモノナルヤ否ヤハ被告ノ抗辯ノ有無ニ拘ハラス裁判所ノ職權ヲ以テ之ヲ調査スヘキモノタルコトヲ知ルヘキナリ

第四百九十條 證書訴訟ニ於テ適法ノ證據方法ヲ以テ被告ノ義務タル證據ヲ申立テス又ハ完全ニ之ヲ舉ケサルトキハ被告ノ異議ハ證書訴訟ニ於テ許ササルモノトシテ之ヲ却下ス可シ

〔義解〕(三七〇) 本條ハ被告カ異議ヲ主張スル場合ニ於テ證書訴訟ニ於テ必要ナリトスル法式ニ從ヒ其證據ヲ申出テス又ハ完全ニ之ヲ舉ケ得サルトキハ之ヲ證書訴訟ニ於テハ許サ、ルモノトシテ却下スヘキコトト定メタルモノナリ蓋シ證書訴訟ニ於テハ嚴格ニ其要件ヲ定

メ之レニ適合スルニアラサル以上ハ其訴訟ヲ許サ、ルコトト爲セシ
 モノタルコト已ニ見來ルカ如クナルヲ以テ若シ被告ニ於テ之ヲ争ハ
 ノトスルニモ法律ノ規定ニ適シタル方法ヲ以テ之レニ答ヘシメサル
 可ラス故ニ若シ此ノ方法ニ出ラサルトキハ證書訴訟トシテ理由ヲ具
 ヘサル抗辯トシテ之ヲ却下スヘキモノト定メタルハ最モ適當ノコト
 ト云ハサルヘカラサルナリ

第四百九十一條 主張シタル請求ヲ争ヒタル被告ニ
 ハ敗訴ノ言渡ヲ受ケタル總テノ場合ニ於テ其權利
 ノ行使ヲ留保ス可シ

判決ニ此留保ヲ掲ケサルトキハ第二百四十二條ノ
 規定ニ依リ判決ノ補充ヲ申立ツルコトヲ得
 留保ヲ掲ケタル判決ハ上訴及ヒ強制執行ニ付テハ

之ヲ終局判決ト看做ス

〔義解〕(三七二) 本條ハ原告ノ請求ニ對シ被告カ之ヲ爭フタル場合ニシテ此ノ場合ニ於テ被告ヲ敗訴者トスルニハ凡テ其權利ノ行使ヲ留保スヘキモノト定メタリ蓋シ證書訴訟ニ於テハ爭ヒヲ爲シ得ヘキ範圍極メテ狹隘ナルカ故若シ證書訴訟トシテハ理由ナキ抗辯モ之ヲ普通ノ訴訟ヲ以テスルハ十分證明スルノ道ヲ得之ヲ排斥スルヲ得ルニ至ルモノナキニアラス故ニ證書訴訟トシテノ訴ニツキ被告カ其請求ヲ拒ミタル場合ニ於テハ權利ノ行使ヲ留保シテ全ク其命脈ヲ絶ツコトナカラシメタルモノナリ若シ此ノ權利留保ノコト之レアラサルトキハ其請求ハ普通ノ手續ニ因ルモ再ヒスルヲ得サルニ至リ債務者ハ證據ヲ完全ニ擧ク得サルノ途ヲ擇マレタル爲メ不法ニ其義務ヲ盡サ、ル可ラサルニ至ルコトトナルカ故法律ハ此ノ場合ニ於テハ凡テ其

權利ノ留保ヲ爲スヘキコトト定メタルモノナリ而シテ被告カ本案ニツキ争ハサル場合ニ於テ敗訴ノ言渡ヲナストキハ其義務ヲ認メタルモノト云フヲ得ヘキカ故固ヨリ其權利ハ留保セラル、コト之レアラサルナリ

第二項ハ判決ノ補充ニ關スル規定ニシテ即チ此ノ留保ヲ判決ニ掲ケサルトキハ第二百四十二條ノ規定ニ從ヒ之レカ補充ヲ申立テ得ルコトト定メタルモノナリ

已ニ判決ニ於テ此ノ留保ヲ掲ケ敗訴ノ言渡ヲ爲シタルトキハ之レニ對シ上訴ヲ爲スコトモ得又判決確定ニ至レハ執行ヲ爲スコトモ得ヘキカ故之ヲ以テ上訴又ハ強制執行ニ付キテハ終局判決ト看做スコトト定メタルモノナリ

第四百九十二條 被告ニ權利ノ行使ヲ留保シタルト

キハ訴訟ハ通常ノ訴訟手續ニ於テ繫屬ス

此手續ニ於テ證書訴訟ヲ以テ主張シタル請求ノ理由ナカリシコトノ顯ハルルトキハ前判決ヲ廢棄シ原告ノ請求ヲ却下シ且其生セシメタル費用ノ全部又ハ一分ノ辨濟ヲ原告ニ言渡シ又前判決ニ基キ被告ヨリ支拂ヒ又ハ給付シタルモノノ辨濟ヲ申立ニ因リ原告ニ言渡ス可シ

右手續ニ於テ原告若クハ被告カ出頭セサルトキハ
 闕席判決ニ關スル規定ヲ準用ス

〔義解〕(三七二) 本條ハ證書訴訟ニ於テ被告カ本案ノ請求ヲ争ヒタル爲メ之レニ對シ前條ノ規定ニ依リ權利ノ留保ヲ爲シタル場合ヲ規定シタルモノナリ此場合ニ於テハ其訴訟ハ通常ノ訴訟手續ニ於テ繫屬

スルモノト定メタリ故ニ通常ノ訴訟手續ニ依リ被告ハ更ラニ本案ニ對シ之レカ争ヒヲ爲スコトヲ得ルモノナリ之レ前條ノ規定ヨリシテ自然ニ生スル處ノ結果ナリトス

此ノ手續即チ通常ノ訴訟手續ヲ以テ訴訟ヲ進行シタル未證書訴訟ヲ以テ原告カ其請求ヲ主張シタルコトカ理由ナキコトニ至ルトキハ證書訴訟ニ於テ原告ノ請求ヲ容認シタル判決ハ之ヲ廢棄シ其請求ヲ却下スルコトトナサ、ルヘカラス而シテ其訴訟ノ爲メニ生セシメタル費用ハ其全部又ハ或ル場合ニ於テハ其幾部ヲ原告ヨリ被告ニ辨濟スヘキコトヲ言渡シ若シ證書訴訟ノ判決ニ基キ已ニ被告ヨリ原告ニ支拂ヒ又ハ給付シタルトキニ於テ被告ノ申立ヲ以テ之レカ辨濟ヲ請求スルトキハ此ヲ辨濟スヘキコトモ亦言渡サ、ルヘカラサルナリ而シテ此ノ通常ノ訴訟手續ニ於テ繫屬スルコトトナリタル訴訟ニ於

テ原告若クハ被告カ出頭セサルトキハ欠席判決ノ規定ヲ準用シ一方ノ申立ニ因リ或ハ其訴ヲ却下シ或ハ其負擔ヲ言渡スコトトナサ、ルヘカラサルナリ

第四百九十三條 第四百二十六條及ヒ第四百二十七

條ノ規定ハ證書訴訟ニ之ヲ適用セス

〔義解〕(三七三) 第二百四十六條及ヒ第二百四十七條ハ被告カ時機ニ後レテ防禦ノ方法ヲ提出シ訴訟ヲ遅延セシムルノ意思アリト見ヘタル場合ニ於テ此ノ防禦ノ方法ヲ却下スヘキコトノ規定ニシテ該兩條ハ控訴ノ場合ニ就キ此ノ却下ヲナストキハ被告カ之ヲ主張スルノ權利ヲ留保スヘキコトト定メ且ツ之レニ關スル凡テノ規定ヲ爲シタルモノナリ本條ハ證書訴訟ニ於テハ之ヲ適用セストノ規定ニシテ證書訴訟ハ已ニ見タルカ如ク其争點ヲ簡易ニシ書證ニ基イテ之ヲ審判ス

ルモノナルヲ以テ此ノ規定ヲ準用スルトキハ證書訴訟ノ本旨ニ反ス
ルコトトナルカ故殊更ラニ此ノ規定ヲ爲シタルモノナリ

第四百九十四條 商法ニ規定シタル手形ニ因ル請求
ヲ證書訴訟ヲ以テ主張スルトキハ爲替訴訟トシテ
以下二條ニ掲クル特別ノ規定ヲ適用ス

〔義解〕(三七四) 本條ハ爲替訴訟ニ關スル規定ニシテ商法ニ定メタル
手形ヲ以テ請求ヲ主張スル場合ニ於テハ之ヲ爲替訴訟トシテ本條以
下二條ノ規定ヲ準用スルモノト爲セリ之レ證書訴訟ヨリ尙ホ一段迅
速ヲ要スルノ事情アルカ故殊ニ此ノ規定ヲ爲シ其權利ヲ保護シタル
モノナリ

第四百九十五條 爲替ノ訴ハ支拂地ノ裁判所又ハ被
告カ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所ニ之ヲ起ス

コトヲ得

數人ノ爲替義務者カ共同ニテ訴ヲ受ク可キトキハ
支拂地ノ裁判所又ハ被告ノ各人カ其普通裁判籍ヲ
有スル地ノ裁判所各之ヲ管轄ス

第四百九十六條 訴狀ニハ爲替訴訟トシテ訴フル旨
ヲ掲クルコトヲ要ス

訴ノ許ス可キモノナルトキハ直チニ口頭辯論ノ期
日ヲ定ム

口頭辯論ノ期日ト訴狀送達トノ間ニハ少ナクトモ
二十四時ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

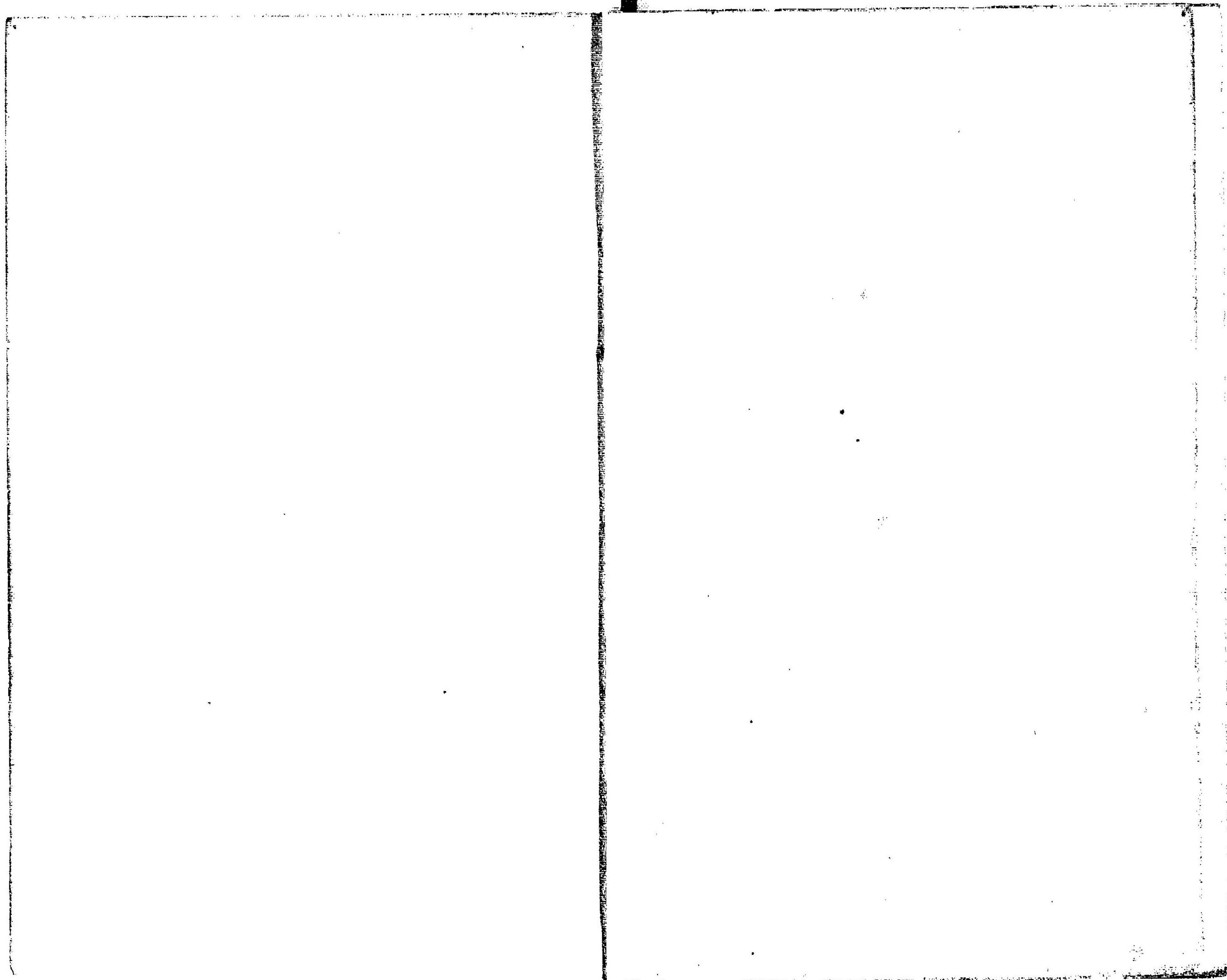
〔義解〕(三七五) 此ノ二條ハ爲替訴訟ニ於テ格段ナル規定ニシテ周密
ニ債權者ノ利益ヲ保護シタルモノナリ即チ第四百九十五條ニ於テハ

爲替訴訟ハ爲替ノ支拂ヲ約シタル地ノ裁判所又ハ被告カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所ニ於テ原告ノ撰ム處ヲ以テ其訴ヲ起スヲ得ルコトトナセシカ如キ又數人ノ義務者ニ對シ共同ニテ訴ヲ起ストキハ其爲替支拂地ノ裁判所又ハ被告ノ各人カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所各之レカ管轄ヲ爲スコトトナセシカ如キ管轄ニ關スル便宜ヲ原告タル債權者ニ與ヘタルコトヲ見ルヘキナリ

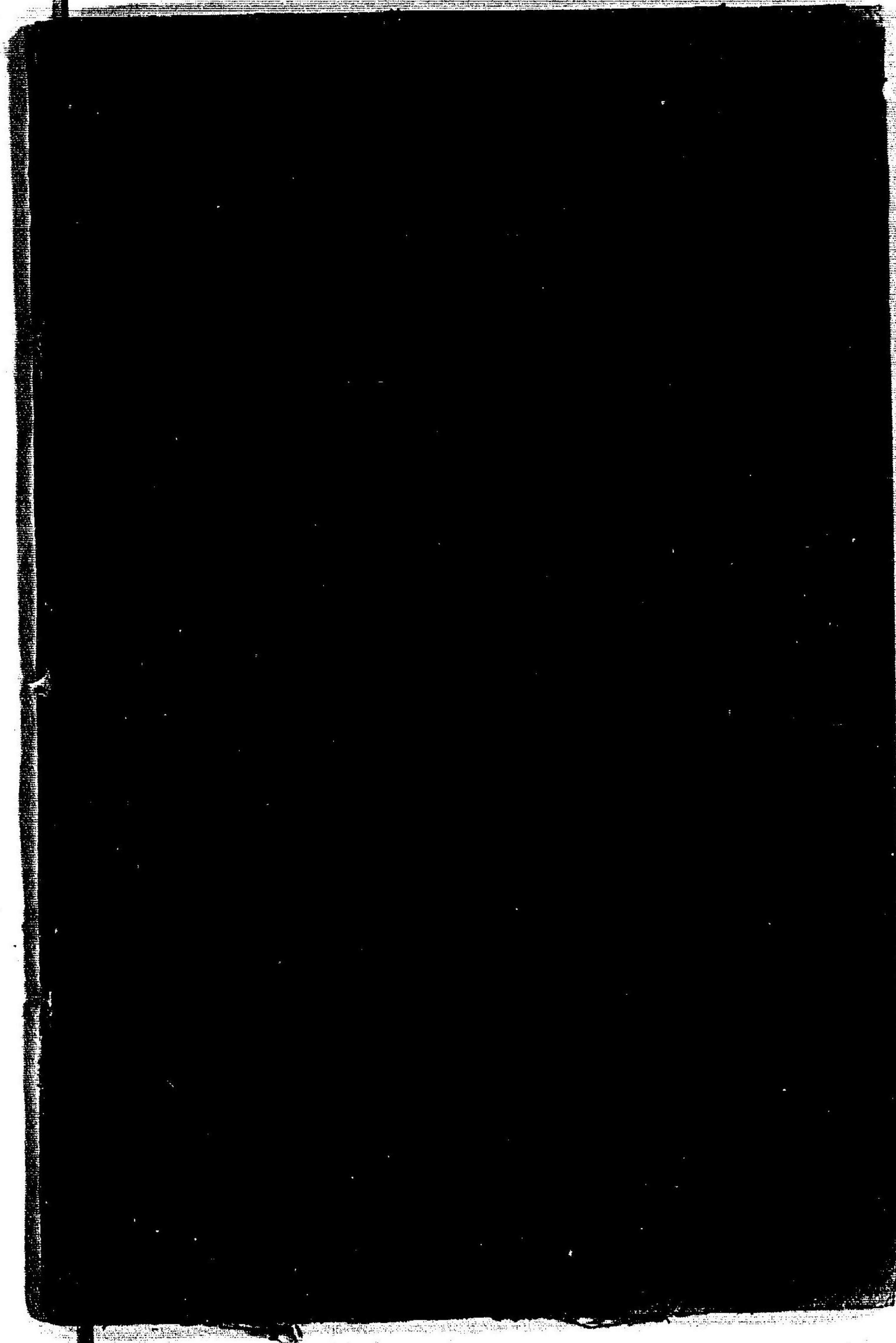
第四百九十六條ニ於テハ此ノ訴訟ハ其訴狀ニ必ス爲替訴訟トシテ訴フル旨ヲ掲クヘキコトヲ命シ其爲替訴訟トシテ訴ヲ爲シ得ヘキモノト認ムルトキハ直チニ口頭辯論期日ヲ定ムヘキコトト爲セシモノニテ唯末項ニ於テ辯論期日ト訴狀送達トノ間ニハ二十四時以上ノ時間ヲ存スヘキモノト定メ債務者ヲシテ之レニ答フルノ準備ヲ得セシメタル外盡ク權利者ノ爲メ特別ニ迅速ニ且ツ便宜ニ訴訟ヲ終結スルヲ

得セシメタル規定タルコトヲ知ルヘキナリ

以上講スル處ヲ以テ第五編ヲ終結シタリ第六編以下ハ龜山氏ノ擔任ヲ以テ已ニ講了セラレタルカ故幸ヒニ期スル處ノ時日ニ於テ民事訴訟法ノ全篇ヲ終ルヲ得タリ惟フニ數月間ノ講述ナレハ或ハ粗漏ニ涉リ或ハ妥當ヲ失フ處ノモノナキニアラサル可シ他日之レカ再閱ヲナスノ時日ヲ得テ大ニ校訂補修スル所アルヘシ



41
79



M